

令和4年度の各機関の取組

令和5年6月2日

鈴鹿川外・雲出川外・櫛田川外・宮川外
流域治水協議会(合同協議会)

令和4年度の各機関の取組 目次

取組項目	① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
	② 被害対象を減少させるための対策
	③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

機 関 名	概 要	取組項目	ページ
四日市市	河道拡幅、防災アプリを活用したハザード情報発信	①、③	2
菰野町	河道掘削、防災マップ更新	①、③	3、4
朝日町	防災アプリを使った避難情報の配信、防災教育の支援	③	5
川越町	防災教育の支援	③	6
鈴鹿市	下水道整備、SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信	①、③	7
亀山市	立地適正化計画に基づく防災指針の作成検討、防災教育の支援	②、③	8、9
津市	河道掘削、内水浸水想定区域図、内水ハザードマップ作成・公表、避難情報発令基準の見直し	①、③	10
松阪市	排水ポンプ場整備、田んぼダムの活動に対する啓発、ハザードマップの作成	①、③	11、12
多気町	土砂浚渫、伐採木のバイオマス発電への利活用、ハザードマップの更新	①、③	13
大台町	災害からライフラインを守る事前伐採事業、防災・行政情報配信システム整備事業	②、③	14
玉城町	河道掘削、浚渫、避難所運営マニュアル作成	①、③	15
度会町	浚渫、樹木伐採、護岸整備、デジタルを活用した情報配信	①、③	16
伊勢市	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	①、②	17
南伊勢町	親子防災、地域防災の取組	③	18
三重県 農業基盤整備課	田んぼダムの普及・啓発	①	19
三重県 治山林道課	森林整備、治山ダム整備	①	20
三重県 港湾・海岸課	高潮浸水想定区域の指定(伊勢湾沿岸)	③	21
四日市建設事務所	堆積土砂撤去	①	22
津建設事務所	二級河川志登茂川河道に関する掘削、築堤、橋梁改築	①	23
松阪建設事務所	土砂災害対策施設の整備、堆積土砂撤去、河川改修	①	24～26
伊勢建設事務所	堤防整備、砂防堰堤整備、河道拡幅、護岸整備	①	27、28
東海農政局	安濃ダムにおける堆砂対策	①	29
三重森林管理署	森林整備・保全	①	30
蓮ダム管理所	防災情報の提供、防災教育の支援	③	31
津地方気象台	気象情報の改善	③	32、33

鈴鹿川水系流域治水プロジェクト

【準用河川源の堀川：河道拡幅】

- 事業区間周辺では過去に浸水被害が発生しており、準用河川源の堀川の拡幅整備を実施することにより、流域における治水の安全度の向上を図る。
築堤護岸整備(左岸) L=132.2m



【防災アプリを活用したハザード情報発信】

浸水リスクを確認できるアプリARLook(あるっく)の開発



現在地でカメラをかざすと、その場所の想定浸水深や避難所までの距離・方角を表示することができる。

四日市市では分かりやすい防災情報の提供に取り組むため名古屋大学減災連携研究センターと共同で開発。

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・朝明新川：河道拡幅 ・源の堀川：河道拡幅 ・堀川：内水対策 ・鹿化川他：浚渫工 ・下水道施設の耐水化 ・貯留管整備	【市】 【市】 【市】 【市】 【市】		
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の作成	【市】		
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・特設的な水災害教育の実施と伝承(防災訓練・講習会・出前講座・教育の実施) ・水害リスク情報の空白域の解消(ハザードマップ作成・ワークショップ) ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌・ハザードマップ配布) ・要配慮者施設における避難訓練の実施(避難確保計画作成・訓練実施の促進) ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(迅速な提供)	【市】 【市】 【市】 【市】		

※短期目標は3年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【焼合川支川21号河川：河道掘削】

- 河川水を安全に流下させ、周辺集約の安全を確保するために河道掘削を行い水位低下を図る。

着手前



完了後

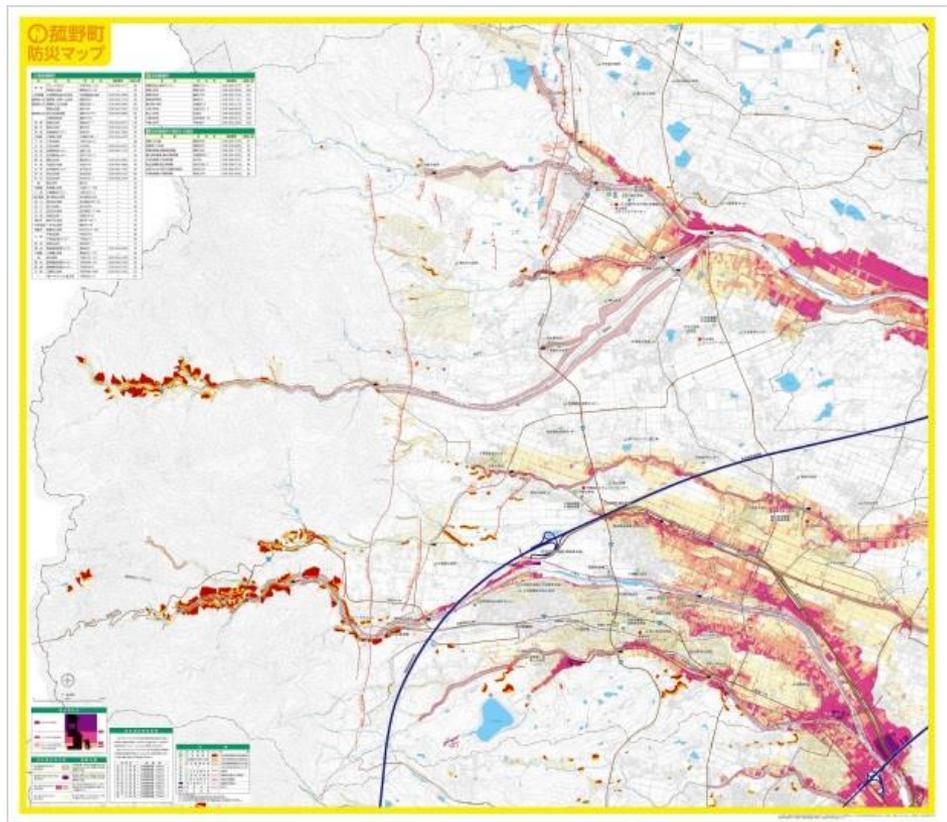


対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・焼合川支川21号河川：河道掘削 ・洞道川：河川改修	【町】 【町】	 	
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク情報の空白域の解消（ハザードマップの作成・配布） ・要配慮者施設における避難訓練の実施（避難確保計画） ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供（カメラ）	【町】 【町】 【町】	 	

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【菰野町防災マップ更新】

令和4年5月に県が町内を流れる県管理河川の浸水想定区域を追加、延長して指定、公表したことを受け、菰野町防災マップを更新し、町内の全戸へ配布。また、広く町内に居住する方へ町内の災害リスクを周知するため、外国語版の防災マップも作成し、町HPで公表し、町民の防災意識の高揚を図る。



対策メニュー		【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・焼合川支川21号河川：河道掘削 ・洞道川：河川改修		【町】 【町】	→ →	
■ 被害対象を減少させるための対策				
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク情報の空白域の解消（ハザードマップの作成・配布） ・要配慮者施設における避難訓練の実施（避難確保計画） ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供（カメラ）		【町】 【町】 【町】	→ → →	

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【防災アプリを使った避難情報の配信】

- ・R元年に導入した防災アプリ(朝日Sアラート)の更なる普及を目的に、操作方法や設定方法など、高齢者のスマートフォン保持者に向け講座を行った。
- ・R5.3月末現在 登録者数:2,717人 ※人口:11,099人

【講座の様子】



【持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援)】

- ・朝日中学校において防災教育を実施。
- ・2年生の保健には、自然災害によるけがの防止という単元があり、町の災害リスクについて講話の後、備蓄物資を使って体験型の授業を行った。

【ダンボールベッド作成の様子】



【簡易トイレ設置後の様子】



- ・町の自主団体である日赤朝日町地域奉仕団に、災害への備えについて出前講座を行った。

【講座の様子】



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・朝明川・堤防整備・河道掘削・護岸整備	【県】	→	
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の検討	【町】	計画策定済み	
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(高潮ハザードマップの作成) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災訓練・講演会・出前講座の実施) ・実効性のある要配慮者利用施設における避難訓練の実施(避難確保計画作成・訓練実施促進) ・企業等と連携した避難体制等の確保(災害協定による一時避難所の確保) ・避難行動要支援者の避難行動への理解促進(個別避難計画作成) ・SNS・広報紙等を活用した継続的な情報発信(防災アプリ等を使った避難情報の配信)	【町】 【町】 【町】 【町】 【町】 【町】	作成済み 実施中 実施中 実施中 実施中	

【持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援)】

令和4年度においては、小学校2校(4年生対象)の防災教育の支援を実施。
 令和5年度も小学校2校の小学4年生へ防災教育の支援を実施する予定。



水防倉庫(指定緊急避難場所)での防災教室の様子

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災訓練・講習会・出前講座・教育の実施) ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌・ハザードマップ配布) ・要配慮者施設における避難訓練の実施(避難確保計画作成・訓練実施の促進) ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(水位計)	【町】	→	
	【町】	→	
	【町】	→	
	【町】	実施中	

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10~20年程度を想定

鈴鹿川水系流域治水プロジェクト

【金沢排水区：下水道整備】

- 河川整備計画目標流量を安全に流下させるために、護岸整備を行い水位低下を図る。
- R4年度には、約117mの護岸工事を実施し、R7年度までにおいて約589mの護岸工事を実施予定。



【SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)】

広報誌等に、風水害時における迅速な避難に向けた情報収集手段及び事前の準備、とるべき行動などを掲載。



広報すずか令和4年7月5日号

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・鈴鹿川：堤防整備・河道掘削・頭首工改築 ・安楽川：堤防整備 ・芥川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・北長太川：河道拡幅 ・下水道整備(下水道(雨水)施設整備事業)	【国】 【国】 【県】 【市】 【市】		
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の検討	【市】		
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(地域住民へ防災啓発) ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施 ・高齢者の避難行動への理解促進(地域住民へ防災啓発) ・企業と連携した避難体制の確保 ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)	【市】 【市】 【市】 【市】 【市】 【市】		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【内水氾濫を防ぐための対策】

都市下水路整備事業

近年多発するゲリラ豪雨や台風等による浸水被害の軽減を図るため、底張りコンクリートを施工し、水路の流下能力向上を図った。

底張コンクリート



都市下水路維持管理事業

堆積土砂や雑草により排水路機能が低下するため、排水路の清掃や除草作業を実施、適切な維持管理に努めた。

排水路清掃(施工前)

排水路清掃(施工後)



河川維持修繕事業

市街地における内水氾濫を防止するため、準用河川竜川において除草、浚渫などの河川清掃を実施。また、3箇所ある水位警報機の点検を毎年実施。

■ 施工前



■ 施工後



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・鈴鹿川：堤防整備・河道掘削・頭首工改築 ・椋川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・浸水対策計画策定(防災・安全社会資本整備交付金)	【国】 【県】 【市】	→	→
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の検討	【市】	→	
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援) ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(避難計画の策定) ・流域の水災害の早期把握に資する情報提供(防災アプリ等) ・企業と連携した避難体制の確保 ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)	【市】 【市】 【市】 【市】 【市】 【市】	→	→

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【立地適正化計画に基づく防災指針の作成検討】

・近年の自然災害の頻発・激甚化を踏まえ、災害リスクを踏まえた防災まちづくりを進めることが重要である。

【令和4年度取り組み内容】

令和4年度は、都市再生特別措置法等の一部を改正する法律(R2. 9. 7施行)に伴い、新たに立地適正化計画の居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保対策を定める「防災指針」の作成に向け、検討方法や作成スケジュールについて検討を行った。

【持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援)】

・令和4年度においては、市内小学校(3校)及び放課後児童クラブ(3クラブ)にて防災教育の支援を実施。



[亀山西小学校]

[スマイル]



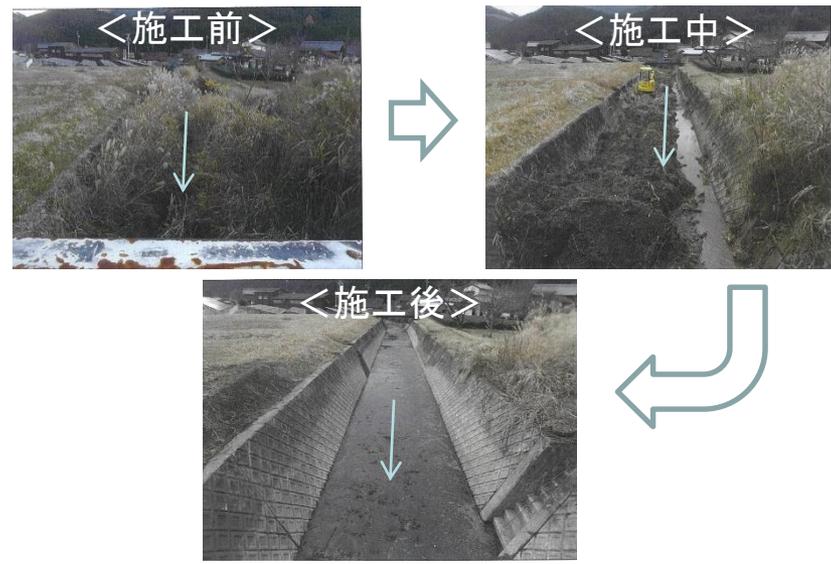
対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・鈴鹿川: 堤防整備・河道掘削・頭首工改築 ・椋川: 河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・浸水対策計画策定(防災・安全社会資本整備交付金)	【国】 【県】 【市】	→	→
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の検討	【市】	→	
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援) ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(避難計画の策定) ・流域の水災害の早期把握に資する情報提供(防災アプリ等) ・企業と連携した避難体制の確保 ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)	【市】 【市】 【市】 【市】 【市】 【市】	→	→

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

雲出川水系流域治水プロジェクト

【耕作川他4河川 河道掘削】

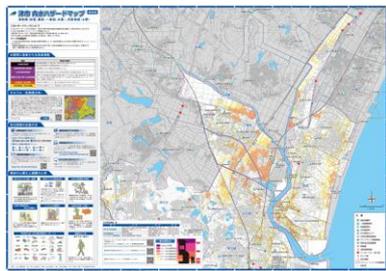
堆積土砂撤去や立木伐採を行い、河川の流下能力を回復し、流域の治水安全度向上を図る。



【水害リスク空白域の解消】

津市雨水管理総合計画の重点対策地区を先行して、内水浸水想定区域図(雨水出水浸水想定区域図)、内水ハザードマップを作成・公表(令和5年3月31日)

＜津市内水ハザードマップ＞



令和4年度作成範囲

津市雨水管理総合計画の重点対策地区とその地区に隣接する排水区を含む区域
対象区域

- ①白塚、栗真、一身田、大里、上野
- ②北立誠、南立誠、津西、安東
- ③敬和、養正、修成、育生、神戸
- ④南が丘、藤水、高茶屋、雲出
- ⑤誠之、戸木、成美、立成
- ⑥椋本

【中小河川における避難情報発令基準の見直し】

R4.5.24 津市内39河川の洪水浸水想定区域が指定

地元住民・消防団・市などが連携
今回指定された39の中小河川のうち、どの河川において、避難情報の発令基準を設けるか検討

令和5年度より判断基準を随時設置

- 赤: 緊急安全確保
- 黄: 避難指示
- 青: 高齢者等避難



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・雲出川:堤防整備・河道掘削・遊水地整備・無堤部対策 ・波瀬川:河道掘削 ・浚渫(緊急浚渫推進事業) ・下水道整備 ・森林整備 ・ため池等の活用	【国】 【国】 【市】 【市】 【市】 【市】		
■ 被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画(見直し)に基づく防災指針の作成 ・土地利用規制の検討	【市】 【市】		
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援) ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(避難確保計画の作成促進) ・流域の水災害の早期把握に資する情報提供(水位計・監視カメラの設置) ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)	【市】 【市】 【市】 【市】 【市】		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

雲出川水系流域治水プロジェクト

【排水ポンプ場の整備(中川東部排水機場ストックマネジメント事業)】

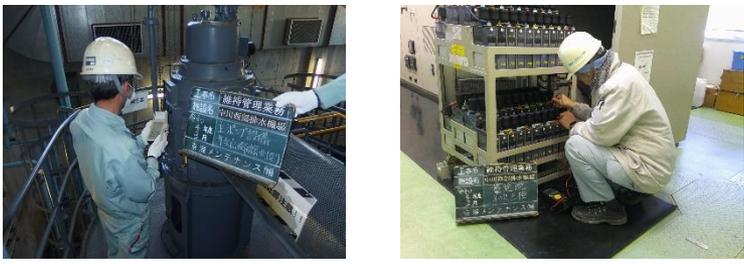
・令和4年度においては、中川東部排水機場にてストックマネジメント事業における機械・電器設備の点検や、小規模修繕を実施。



ポンプ場設備点検状況

【排水ポンプ場の整備(中川西部排水機場ストックマネジメント事業)】

・令和4年度においては、中川西部排水機場にてストックマネジメント事業における機械・電器設備の点検や、小規模修繕を実施。



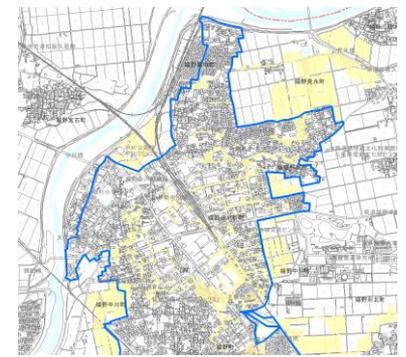
ポンプ場設備点検状況

【水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成)】

・令和4年度においては、公共下水道全体計画区域内の既存水路等の測量調査を実施し、シミュレーションによる内水浸水想定区域図を作成。



既存水路等の測量調査

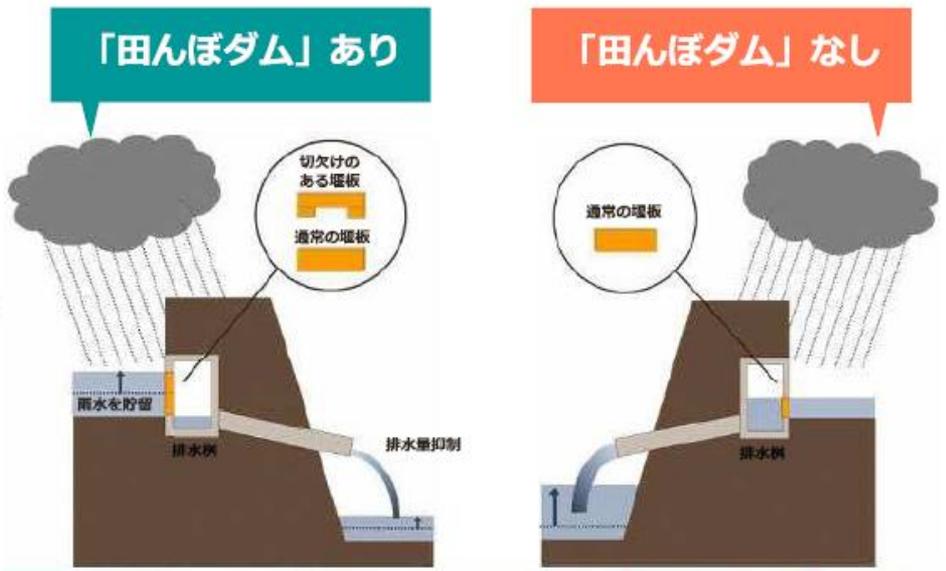
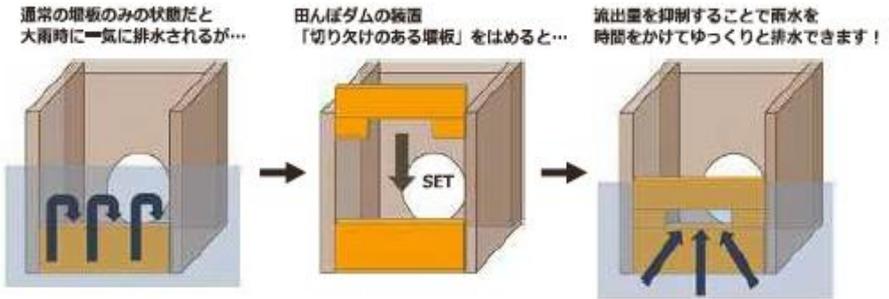


内水浸水想定(案)

対策メニュー		【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策				
・雲出川：堤防整備・河道掘削・無堤岸上げ・水門改築		【国】	→	→
・中村川：堤防整備・河道掘削・横断工作物改築		【国】	→	→
・排水ポンプ場の整備(嬉野東部排水機場ストックマネジメント事業)		【市】	→	→
・排水ポンプ場の整備(嬉野東部排水機場耐水化事業)		【市】	→	→
・排水ポンプ場の整備(嬉野西部排水機場ストックマネジメント事業)		【市】	→	→
・排水ポンプ場の整備(嬉野西部排水機場耐水化事業)		【市】	→	→
■ 被害対象を減少させるための対策				
・立地適正化計画の策定		【市】	→	→
・土地利用規制の検討		【市】	→	→
■ 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策				
・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成)		【市】	→	→
・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(避難確保計画の策定促進)		【市】	→	→
・高齢者の避難行動への理解促進(防災教育の支援・啓発冊子への防災情報の掲載)		【市】	→	→
・企業等と連携した避難体制等の確保(事業継続力強化計画の支援)		【市】	→	→
・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌・啓発冊子)		【市】	→	→
・その他(下水道BCP)		【市】	→	→

【田んぼダムの活動に対する啓発】

- ・ 水田の排水柵に流出量を抑制するための堰板等の器具を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えることで、溢れる水の量や範囲を抑制し、浸水被害の軽減を図る。
- ・ R4年度に1組織が実施。今後も啓発活動を行い、雨水貯留機能の向上を図る。



対策メニュー		【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策				
・ 櫛田川：堤防整備・河道掘削		【国】	→	
・ 櫛田川：橋梁改築		【市】	→	
・ 田んぼダムの活動に対する啓発		【市】	→	
■ 被害対象を減少させるための対策				
・ 立地適正化計画の策定		【市】	→	
・ 土地利用規制の検討		【市】	→	
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策				
・ 実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(避難確保計画の策定促進)		【市】	→	
・ 高齢者の避難行動への理解促進(防災教育の支援・啓発冊子への防災情報の掲載)		【市】	→	
・ 企業等と連携した避難体制等の確保(事業継続力強化計画の支援)		【市】	→	
・ SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌・啓発冊子)		【市】	→	

【町管理河川の土砂浚渫】

準用河川外城田川等の土砂浚渫、河道掘削、樹木伐採を行うことにより、水位の低下を図り、人命被害のリスクを低減させる。



河道掘削前の様子



河道掘削後の様子

【流域内伐採木のバイオマス発電への利活用】

豪雨時に河川への雨水の流入量を減少させるための取組として町内で間伐された木や竹をバイオマス発電（民間）の燃料の一部として利用することにより、森林環境の保全を図り、貯水機能を高めている。



貯木場の様子

【ハザードマップの更新】

新たに三重県管理河川の洪水浸水想定区域図が公表されたことを受けて、多気町防災マップを更新した。町内の全世帯に配布することで、水害リスク情報の空白域の解消を図った。



R4作成「多気町防災マップ」

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・五桂池：ため池活用の検討 ・流域内伐採木のバイオマス発電への利活用 ・町管理河川：土砂浚渫	【町】 【町】 【町】		
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消（ハザードマップの更新） ・持続的な水災害教育の実施と伝承（防災訓練の支援） ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施（防災訓練の支援） ・高齢者の避難行動への理解促進（防災訓練の支援） ・SNS・広報紙等を活用した継続的な情報発信	【町】 【町】 【町】 【町】 【町】		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・宮川：堤防整備	【国】		
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消（ハザードマップの更新） ・持続的な水災害教育の実施と伝承（防災訓練の支援） ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施（防災訓練の支援） ・高齢者の避難行動への理解促進（防災訓練の支援） ・SNS・広報紙等を活用した継続的な情報発信	【町】 【町】 【町】 【町】 【町】		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

➤ 防災・行政情報配信システム整備事業

行政からの情報(防災情報やくらしの情報など)を個人のスマートフォンなどに配信するシステム(スマホアプリ)を整備し、令和4年度から本格的に運用を開始した。

◆ダウンロード率: 17.6%(R5.3.31現在)
多くの町民に利用していただくよう、引き続き、会議の場や健康相談の場、各種イベントなどで普及啓発を行っていく。



➤ 災害からライフラインを守る事前伐採事業

台風などの倒木が原因の電線寸断による長期の停電を防ぐため、三重県及び中部電力パワーグリッド(株)と連携し、電線を寸断する恐れのある樹木を事前に伐採した。



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・大内山川:河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備 ・ため池耐震調査・豪雨調査・劣化調査	【県】 【町】		
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップによる啓発) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災訓練の実施) ・実効性のある要配慮者施設における避難訓練の実施(支援) ・高齢者の避難行動への理解促進(防災訓練の実施) ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(防災アプリ) ・災害からライフラインを守る事前伐採事業	【町】 【町】 【町】 【町】 【町】 【町】		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10~20年程度を想定

宮川水系流域治水プロジェクト

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】

外城田川:河道掘削

【内容】

玉城町の市街地において溢水被害が発生した箇所における
 流下能力向上対策、洪水の逆流対策等を実施する。
 令和4年度は、外城田川の河道掘削を115m実施した。



外城田川:浚渫

【内容】

土砂流出・堆積により河川の流下能力が低下(流下断面が阻害)しているため堆積土砂260m³を撤去した。



【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

自助・共助・公助による避難行動:避難所運営マニュアル作成

【内容】

避難所運営マニュアルの作成、運営訓練の実施



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・宮川:堤防整備 (国) ・外城田川:河道掘削 (町) ・ため池耐震性・耐震化対策整備 (町)		→	→
■ 被害対象を減少させるための対策 ・流出抑制(農水 予備排水) (町) ・土地利用や住まい方(災害危険区域の指定) (町)		実施中	実施中
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成) (町) ・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災講話) (町) ・高齢者の避難行動への理解促進(防災講話・避難訓練) (町) ・企業と連携した避難体制等の確保(施設使用協定) (町) ・自助・共助・公助による避難行動(避難所運営マニュアル作成) (町) ・流域の水災害の早期把握に資する防炎情報の提供(雨量計の設置) (町) ・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌) (町)		策定済み	→

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

宮川水系流域治水プロジェクト

【治水安全を向上させるためのハード対策（浚渫等）】

準用河川西谷川：浚渫

土砂堆積により、低下した流下能力を回復させるため、堆積した土砂を撤去。



施工前



施工後

準用河川西谷川：支障木伐採・浚渫・護岸整備

河川断面を阻害する樹木や土砂堆積により、低下した流下能力を回復させるため、支障木を伐採。堆積した土砂を撤去し、護岸を整備。



施工前



施工後

【水害リスク情報の空白域の解消（デジタルを活用した情報配信）】

防災アプリを更新。流域に関わるハザードマップ、河川の監視カメラ画像がスマートフォンから即座に閲覧可能。



【アプリ情報による減災対策】

- 防災行政無線放送による災害情報取得
- 洪水ハザードマップから洪水浸水想定区域の把握
- 監視カメラ画像を活用した避難ルートの選定

【監視カメラ画像の配信】

- 宮川本流及び洪水浸水区域内の道路に設置
- 県道度会玉城線内城田大橋
- 主要地方道伊勢大宮線立岡地内
- 町道学校上久具線久具都比売橋
- 主要地方道伊勢南島線川口地内



自宅や勤務先から河川の氾濫状況を確認

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 <ul style="list-style-type: none"> ・町管理河川護岸整備等 ・町管理河川浚渫 ・町管理河川支障木伐採 ・森林整備 	【町】 【町】 【町】 【町】		
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 <ul style="list-style-type: none"> ・水害リスク空白域の解消（ハザードマップの作成） ・持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援） ・高齢者の避難行動への理解促進（避難行動要支援者名簿作成・更新） ・円滑かつ迅速な避難に資するための防災行政無線の補強などの施設整備（デジタル化） ・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供（監視カメラ・雨量計・ドローン） ・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信（広報誌） ・企業と連携した小型無人機による情報収集 ・施設・庁舎の耐水化（他町連携による機能移転） 	【町】 【町】 【町】 【町】 【町】 【町】 【町】		策定済

宮川水系流域治水プロジェクト

宮川水系流域治水プロジェクトの推進(下水道事業) ~ 勢田川流域等浸水対策実行計画 ~

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

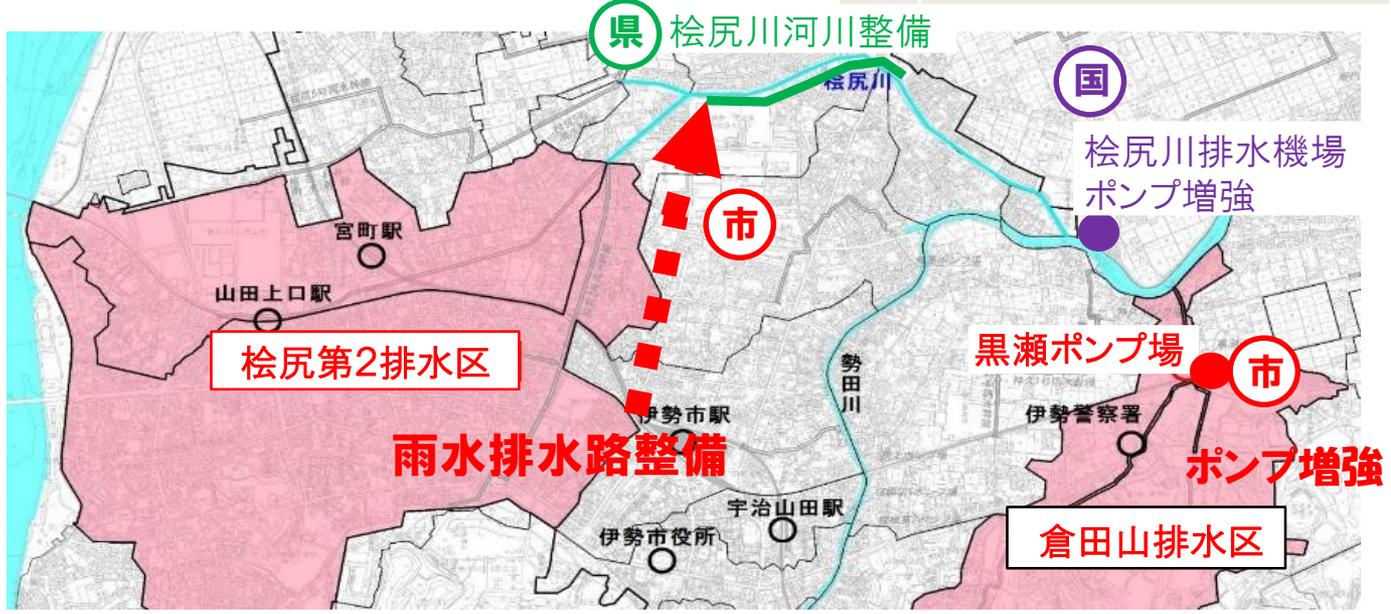
平成29年10月の台風第21号による被害を受け、取組む浸水対策

桧尻第2排水区(一級河川桧尻川上流域)
 雨水排水路工事 R5着手予定

倉田山排水区
 黒瀬ポンプ場ポンプ増設工事
 排水能力
 12.3m³/s→17.7m³/s (R5完成見込み)

宮川水系流域治水プロジェクト(勢田川流域浸水対策実行計画)

事業主体	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策内容	実施する目標期間	
		短期計画 (今後5年程度)	中長期計画 (今後10~30年程度)
国	<ul style="list-style-type: none"> 勢田川の河道掘削・堤防かさ上げ 桧尻川排水機場のポンプ増強 勢田川排水機場のポンプ増強 	○	○
県	<ul style="list-style-type: none"> 桧尻川の河道掘削 桧尻川の河川整備 	○	○
市	<ul style="list-style-type: none"> 勢田川・桧尻流域の下水道整備 桧尻川(準用河川)の河川整備 	○	○



【持続的な水災害教育の実施と伝承】 （防災教育の支援）】

<目的>

○大規模な自然災害発生時に、自ら考え、行動できる人材を育む

- ・自分の身は自分で守る力をつける
- ・防災・減災の知識を向上させ、地域のリーダーの育成を図る。



<実施内容>

○親子防災の取組

想定される災害を知ってもらうと共に、災害時における二次避難所の施設を見学し、円滑に避難所の運営ができる知識を身に着けるための活動を行う。

簡易ベットの組み立て、テントを利用したプライベートスペースをつくる体験を行った。

○地域防災の取組

地域と陸上自衛隊が連携し、河川の氾濫や台風等による災害から身を守るための行動ができる人材を育成する。

土のう作り体験、土のう積み訓練を行った。

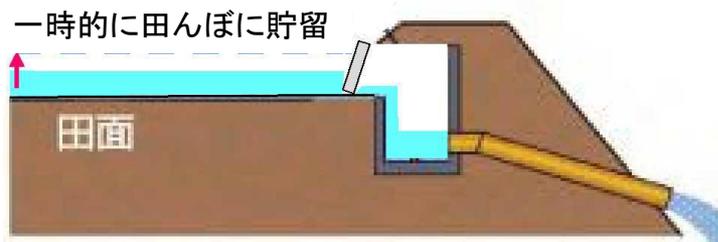
デジタル副読本イメージ

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・準用河川一之瀬川流倒木撤去	【町】	→	
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策			
・水害リスク空白域の解消(ハザードマップの作成)	【町】		→
・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災教育の支援)	【町】		→
・高齢者の避難行動への理解促進(避難行動要支援者名簿作成)	【町】		→
・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(雨量計の設置)	【町】	→	
・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(ドローンの活用)	【町】		→
・SNS・広報誌等を活用した継続的な情報発信(広報誌)	【町】		→
・企業と連携した小型無人機による情報収集	【町】		→

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10~20年程度を想定

【田んぼダムの普及・啓発】

・田んぼの排水口(落水工)の堰板を改良し、大雨時に降水を一時的に田んぼに貯留することで、排水路や河川への流出を抑制し、下流域での浸水被害の軽減を図るため「田んぼダム」の普及・啓発を行い被害リスクの低減を図った。



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 <ul style="list-style-type: none"> ・棕川: 河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・芥川: 河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・足見川: 河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・棕川他: 堆積土砂撤去 ・土砂災害対策 ・治山ダムの整備、森林整備 ・田んぼダムの活動に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 【県】 【県】 【県】 【県】 【県】 【県】 【県】 		
■ 被害対象を減少させるための対策 <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援 	<ul style="list-style-type: none"> 【県】 		
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 <ul style="list-style-type: none"> ・水害リスク空白域の解消(浸水想定区域図の作成) ・流域の水災害の早期把握に資する情報提供 ・実効性のある要配慮者施設における避難確保計画の策定 ・高齢者の避難行動への理解促進(地域住民へ防災啓発) 	<ul style="list-style-type: none"> 【県】 【県】 【県】 【県】 		

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10~20年程度を想定

【森林整備】

・手入れ不足等により過密状態となった森林において、森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。



施工前

流域名	実績
鈴鹿川流域	13.80ha
雲出川流域	132.77ha
榑田川流域	93.11ha
宮川流域	193.20ha



施工後

森林整備実施箇所(度会町)

【治山ダムの整備】

・治山ダムの整備により、山脚の固定を図り溪岸の侵食を防止するとともに、上流側も渓床勾配を緩和することにより土砂・流木の流出を抑制し、山地災害を未然に防止する。

流域名	実績
鈴鹿川流域	1基
雲出川流域	2基
榑田川流域	13基
宮川流域	6基



治山ダム整備箇所(松阪市)

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
		<p>■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山ダムの整備 ・森林整備 	
<p>■ 被害対象を減少させるための対策</p>			
<p>■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策</p>			

※主体の記載がない項目はあらゆる関係者で取り組むものを想定

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 対策名：水害リスク情報の空白域の解消

【高潮浸水想定区域の指定】（水防法）

伊勢湾沿岸（三重県区間）の高潮浸水想定区域図



・伊勢湾沿岸の高潮浸水想定区域図を公表（令和2年8月）

「三重県ホームページ」や「国土交通省ハザードマップポータルサイト（重ねるハザードマップ）」にて高潮のリスク情報を自由に見ることが可能。

三重県ホームページ



国土交通省ハザードマップポータルサイト（重ねるハザードマップ）



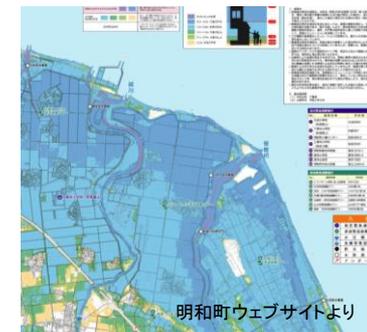
国土交通省ウェブサイトより

【R4取組内容】

伊勢湾沿岸について高潮浸水想定区域を指定
 （令和5年3月）

- ・高潮ハザードマップ作成エリアの拡大へ（水害リスク情報空白域の解消）
- ・要配慮者施設に係る避難の実効性確保へ

高潮ハザードマップ（例）



明和町ウェブサイトより

【鎌谷川等：堆積土砂撤去】

堆積土砂撤去や立木伐採を行い、河川の流下能力を回復し、流域の治水安全度向上を図る。



一級河川鎌谷川
(四日市市山田町地内)



一級河川内部川 (四日市市水沢町地内)

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・鎌谷川等：堆積土砂撤去 ・棕川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・芥川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・足見川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・橋梁改築 ・土砂災害対策 ・森林整備 ・田んぼダムの活動に対する支援	【県】 【県】 【県】 【県】 【県】 【県】	[Red arrow pointing right] [Red arrow pointing right]	[Red arrow pointing right] [Red arrow pointing right] [Red arrow pointing right]
■ 被害対象を減少させるための対策 ・土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援	【県】	[Yellow arrow pointing right]	[Yellow arrow pointing right]
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(浸水想定区域図の作成) 流域の水災害の早期把握に資する情報提供 ・実効性のある要配慮者施設における避難確保計画の策定支援 ・高齢者の避難行動への理解促進(地域住民へ防災啓発)	【県】 【県】 【県】 【県】	[Green arrow pointing right] [Green arrow pointing right] [Green arrow pointing right] [Green arrow pointing right]	[Green arrow pointing right] [Green arrow pointing right]

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

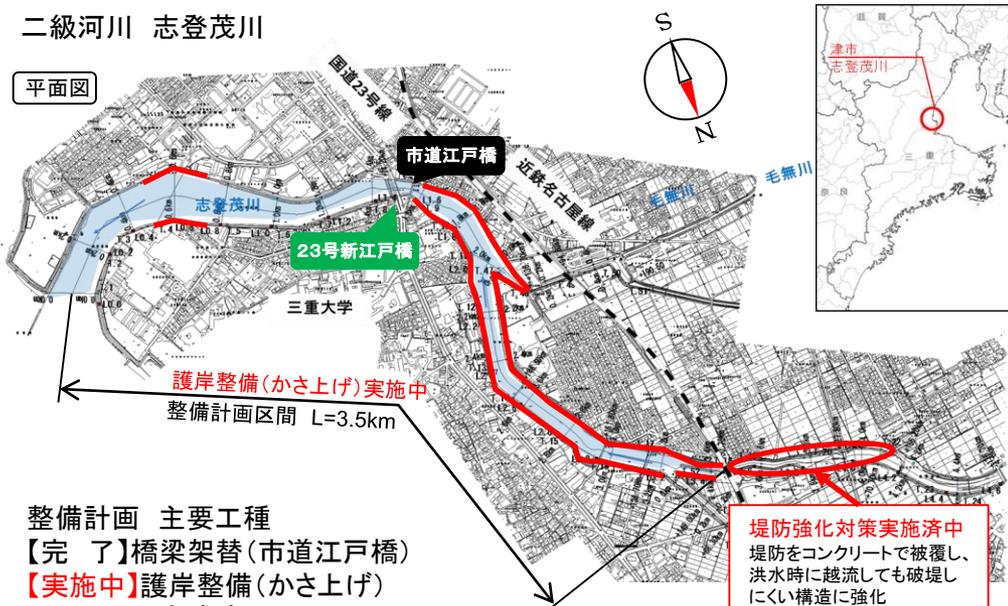
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【目標（コンセプト）】

二級河川志登茂川の河道掘削や築堤及び橋梁改築を行い、洪水時に安全に流下させる河道を整備することで治水安全度の向上を図る。

二級河川 志登茂川

平面図



整備計画 主要工種

【完了】橋梁架替(市道江戸橋)

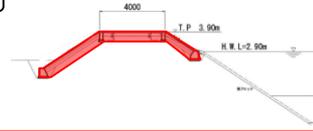
【実施中】護岸整備(かさ上げ)

完成済 L=2,500m

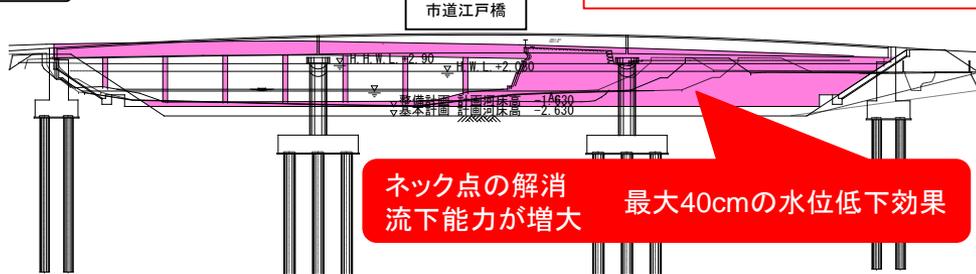
【未整備】河道掘削

堤防強化対策実施済中
堤防をコンクリートで被覆し、
洪水時に越流しても破堤し
にくい構造に強化

断面図



断面図



市道江戸橋

整備前



整備後



護岸整備(かさ上げ)

市道江戸橋 上流



【今後の予定 整備計画】

護岸整備(かさ上げ)完了後、河道掘削を行うことにより流下能力の向上を図る。

- ・護岸整備(かさ上げ) L=1,000m
- ・河道掘削 V=24万m³

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】

・【平野】土砂災害対策施設の整備

- ・土石流から人家や公共施設を守るため、砂防堰堤1基を整備する。
- ・R4年度は堰堤工事を実施した。R5年度に取付水路等を整備する。



【宮川：堆積土砂撤去】

- ・堆積土砂撤去を行い、河川の流下能力を回復し、流域の治水安全度向上を図る。



対策メニュー

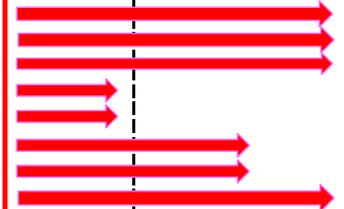
【主体】

短期

中・長期

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 桧尻川・汁谷川【浸水対策実行計画】：河道拡幅、排水機場整備 【県】
- ・ 五十鈴川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備・堰改築 【県】
- ・ 大内山川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備 【県】
- ・ 宮川他：堆積土砂撤去 【県】
- ・ 松下川他：護岸整備等 【県】
- ・ 土砂災害対策 【県】
- ・ 治山ダムの整備、森林整備 【県】
- ・ 宇治山田港海岸：堤防整備、突堤整備、養浜 【県】



【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】

・【長谷砂防】土砂災害対策施設の整備

- ・土石流から人家や公共施設を守るため、砂防堰堤を整備する。
- ・R3年度までに1基の堰堤を整備し、R4年度は2基目の用地買収に着手した。



被災状況 (平成29年10月台風21号)



【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】

・【神野谷砂防】土砂災害対策施設の整備

- ・土石流から人家や公共施設を守るため、砂防堰堤を整備する。
- ・R4年度は用地買収に着手した。



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・相津川他: 堆積土砂撤去 ・土砂災害対策(長谷砂防・神ノ谷川砂防) ・治山ダムの整備、森林整備	【県】 【県】 【県】	→ → →	→ → →
■ 被害対象を減少させるための対策 ・土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援	【県】	→	→
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消(浸水想定区域図の作成) 流域の水災害の早期把握に資する情報提供 ・実効性のある要配慮者施設における避難確保計画の策定支援 ・高齢者の避難行動への理解促進(地域住民へ防災啓発)	【県】 【県】 【県】 【県】	→ → → →	→ → → →

【百々川：河川改修】

- ・河川整備計画目標流量を安全に流下させるために、護岸整備を行い水位低下を図る。
- ・R4年度には、ネックとなっていた松崎橋の架け替えを実施した。R5年度に左岸約160mの護岸工事を実施予定。



【堀坂川：堆積土砂撤去】

- ・堆積土砂撤去や立木伐採を行い、河川の流下能力を回復し、流域の治水安全度向上を図る。



対策メニュー

【主体】

短期

中・長期

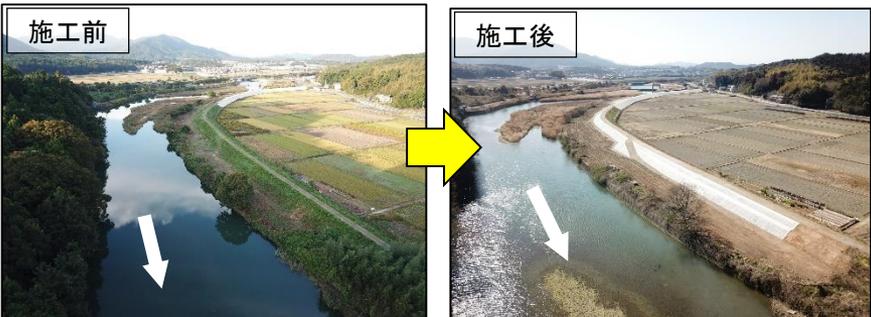
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・三渡川・百々川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備・橋梁改築 【県】
- ・金剛川：河道掘削 【県】
- ・笹笛川他：耐震対策 【県】
- ・施設の延命化 【県】
- ・堀坂川他：護岸整備等 【県】
- ・阪内川他：堆積土砂撤去 【県】
- ・治山ダムの整備・森林整備 【県】
- ・田んぼダムの活動に対する支援 【県】



【五十鈴川：堤防整備】

- ・堤防の天端舗装などの危機管理型ハード対策を実施。
- ・令和4年度までに L=690m実施。引き続き実施予定。



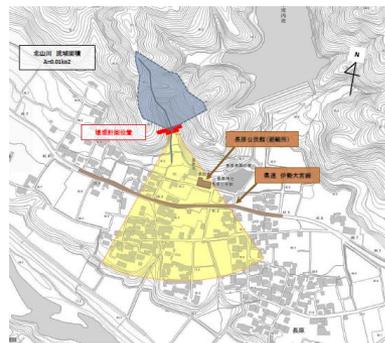
【汁谷川：堤防整備】

- ・堤防断面が不足する区間の堤防整備（特殊堤）をL=320m実施。（完成）



【北山川：砂防堰堤の整備】

- ・降雨により土石流が発生するおそれがあることから、砂防堰堤の整備を実施。（完成）



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策			
・松尻川・汁谷川【浸水対策実行計画】：堤防整備、河道拡幅、排水機場整備	【県】	→	→
・五十鈴川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備・堰改築	【県】	→	→
・大内山川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備	【県】	→	→
・宮川他：体積土砂撤去	【県】	→	
・松下川他：護岸整備等	【県】	→	
・土砂災害対策：砂防堰堤の整備	【県】	→	→
・治山ダムの整備、森林整備	【県】	→	→
・宇治山田港海岸：堤防整備、突堤整備、養浜	【県】	→	→
■ 被害対象を減少させるための対策			
・土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援	【県】	→	→
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策			
・水害リスク空白域の解消（浸水想定区域図の作成）	【県】	→	
・流域の水災害の早期把握に資する情報提供	【県】	→	
・実効性のある要配慮者施設における避難確保計画の策定支援	【県】	→	
・高齢者の避難行動への理解促進（地域住民へ防災啓発）	【県】	→	

宮川水系流域治水プロジェクト

【大内山川：河道拡幅、護岸整備、堤防整備】

- ・河道掘削、河道拡幅、護岸整備、堤防整備を行うことで、必要流下能力の確保を図る。
- ・R4年度には、左岸101mの護岸整備を完了し、R5年度以降も整備を促進していく。

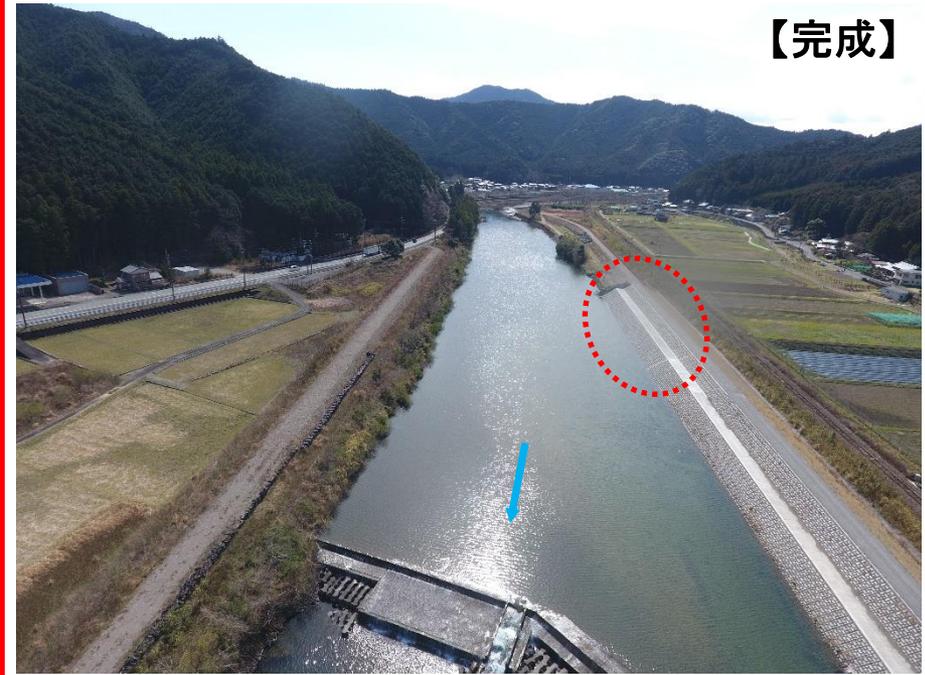
【着手前】



【施工中】



【完成】



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・大内山川：河道掘削・河道拡幅・護岸整備・堤防整備 ・下水道施設の耐水化	【県】 【町】		
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・水害リスク空白域の解消（ハザードマップの作成） ・流域の水災害の早期把握に資する情報提供（ハザードマップの作成）	【町】	計画策定済 実施中	

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10～20年程度を想定

【安濃川:安濃ダムにおける堆砂対策】

- ・安濃ダムは平成元年に運用を開始
 想定以上の早さでダム湖内へ土砂が堆積(堆砂)し、貯水容量への影響が懸念されるため平成24年度より堆砂対策を実施
- ・本事業では、堆砂対策としてダム貯水池への流入部に「貯砂堰堤」を設置するとともに131,000立方メートルの堆積土を搬出(貯砂堰堤:流れ込む土砂を堰止め、堆積した土砂を搬出することでダム本体貯水池内への堆砂を抑制)
- ・「貯砂堰堤」上流に堆積した土砂は、今後、ダム管理の一環として搬出予定
- ・今後も、土砂の搬出を行い、ダムの堆砂を抑制、貯水容量への影響を軽減することを検討中

施工前



施工後



対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
<ul style="list-style-type: none"> ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 ・安濃ダムにおける堆砂対策 	【東海農政局】	→	→ (検討中)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 被害対象を減少させるための対策 			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 			

※短期目標は5年程度、中・長期目標は10~20年程度を想定

【各水系：森林整備・保全】

森林の有する土砂流出防止機能や水源涵養機能を適切に発揮させるため、治山対策及び森林整備を次のとおり実施。

事業区分			鈴鹿川水系		雲出川水系		櫛田川水系		宮川水系	
			4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度	5年度
治山	溪間工等	箇所	—	—	—	—	1	—	1	1
	間伐	h a	—	—	—	16	—	—	—	—
森林整備	更新（造林）	h a	—	—	—	—	—	—	0.46	0.16
	林道（改良）	m	—	—	—	—	25	—	—	107

※令和4年度は実績、令和5年度は予定

施工前



施工後（完成）



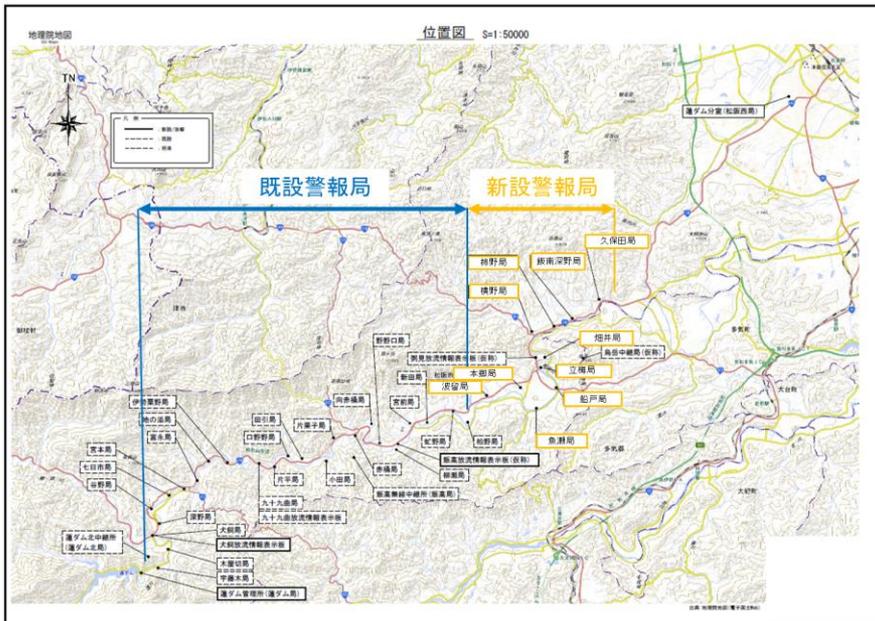
治山工事実施箇所（櫛田川流域）



シカ食害による荒廃地の植生復旧対策（宮川流域）

【流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供】

- ・過去の出水において浸水被害が発生した区間を対象に、警報設備を増設。
- ・R3年度までに警報局の増設を実施し、R6年度に運用を開始予定。



【持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援）】

- ・中学校・小学校それぞれ1校にて、地域のまちづくり協議会が実施する防災教育に参加し、洪水に関する説明を実施。
- ・引き続き、地域と連携して防災教育を実施する予定。



中学校にて、水害等の災害に備え、マイタイムライン作成の防災教育を実施



小学校にて、ジグソー法による防災教育を実施

対策メニュー	【主体】	短期	中・長期
■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策			
■ 被害対象を減少させるための対策			
■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策			
・流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供(警報局)	【国】	→	
・持続的な水災害教育の実施と伝承(防災訓練・講習会・出前講座・教育の実施)	【国】		→
■ グリーンインフラ			
・土砂還元	【国】		→

【顕著な大雨に関する気象情報の改善】

- 気象庁では、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯は予測が難しい現象であるため、現状では、「○○地方」といった広域での呼びかけを行っている。
- 令和4年度出水期の実績では、運用開始前に想定したのとほぼ同程度の予測精度であったが、引き続き予測精度の向上に向けた取組を強化。

令和4年 台風第14号に関する三重県気象情報 第9号
令和4年9月19日05時32分 津地方気象台発表

(見出し)
大型で強い台風第14号は、19日夜遅くから20日明け方にかけて三重県に最も接近する見込みです。このため、20日にかけて台風第14号の影響により、暴風、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、うねりを伴った高波に警戒してください。なお、東海地方では、19日夜から20日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。

(本文)
[台風の現状と今後の予想]
大型で強い台風第14号は、19日4時には鳥栖市付近にあって、1時間におよそ20キロの速さで北へ進んでいます。中心の気圧は960ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は35メートル、最大瞬間風速は50メートルで、中心の北東側260キロ以内と南西側185キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。また、中心の東側750キロ以内と西側650キロ以内では風速15メートル以上の強い風が吹いています。
台風第14号は九州付近を北上し、19日午前中には次第に進路を北東に変えて、19日夜遅くから20日明け方にかけて三重県に最も接近する見込みです。
三重県では、台風の周辺の暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、台風本体の雨雲の影響も加わるため、20日明け方にかけて雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となるでしょう。また、台風の接近により、19日夜のはじめ頃から20日未明にかけて暴風となる見込みです。外海では、台風の影響により引き続きうねりを伴って大しけとなるでしょう。

[雨の実況]
降り始め(16日23時00分)から19日5時00分までの降水量(アメダスによる速報値)
大台町宮川 260.0ミリ
尾鷲 197.0ミリ
松阪市粥見 147.5ミリ

[雨の予想]
19日に予想される1時間降水量は、いずれも多い所で、
北中部 50ミリ
南部 70ミリ
20日に予想される1時間降水量は、いずれも多い所で、
北中部 30ミリ
南部 40ミリ
19日6時から20日6時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、
北中部 150ミリ
南部 300ミリ
その後、20日6時から21日6時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、
北中部 およそ50ミリ
南部 およそ50ミリ
線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに降水量が増えるおそれがあります。

	運用開始前の想定 (過去3年間のデータから検証)	令和4年度 出水期
適中 見逃し 線状降水帯発生呼びかけ「あり」 線状降水帯の発生「あり」	4回に1回程度	13回中3回
線状降水帯発生呼びかけ「なし」 線状降水帯の発生「あり」	3回に2回程度	11回中8回

現時点では運用開始前に想定したのとほぼ同程度の予測精度

令和4年度の実績

7月5日	四国地方	線状降水帯が発生(高知県)	呼びかけできず	
7月15日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
	九州北部地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
7月18日	九州北部地方	線状降水帯が発生(長崎県)	呼びかけできず	
7月18日~19日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
	九州北部地方	線状降水帯が発生(山口県、福岡県、佐賀県、大分県)	呼びかけを実施	適中
8月3日	東北地方	線状降水帯が発生(青森県、秋田県)	呼びかけできず	
	東北地方	線状降水帯が発生(山形県)	呼びかけできず	
	北陸地方	線状降水帯が発生(新潟県)	呼びかけできず	
8月4日	北陸地方	線状降水帯が発生(福井県)	呼びかけできず	
8月12日~13日	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
	関東甲信地方	線状降水帯が発生(伊豆諸島)	呼びかけできず	
9月3日~4日	沖縄地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
9月5日~6日	九州北部地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
9月17日~19日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生(宮崎県)	呼びかけを実施	適中
	九州北部地方	線状降水帯が発生(熊本県)	呼びかけを実施	適中
9月18日~19日	四国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
	中国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
	近畿地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
9月19日~20日	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	
9月23日~24日	東海地方	線状降水帯が発生(愛知県、静岡県)	呼びかけできず	



線状降水帯の予測精度向上を踏まえた情報の提供を早期に実現するため、観測・予測等を強化、「線状降水帯予測スーパーコンピュータ」を令和5年3月1日から稼働させている。

観測の強化

- 陸上観測の強化
- 気象衛星観測の強化
- 局地的大雨の監視の強化
- 洋上観測の強化



マイクロ波放射計



アメダス(温度計追加)



気象レーダー

ラジオゾンデ
(水素ガス浮揚)

高層気象観測装置



海洋気象観測船

次期ひまわり
(令和10年度めどに打上げ)

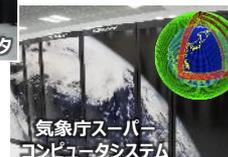


予測の強化

- 高度化した局地アンサンブル予報等の数値予報モデルによる予測精度向上等を早期に実現するためのスーパーコンピュータシステムの整備
- 線状降水帯の機構解明のための、梅雨期の集中観測、関連実験設備（風洞）の強化
- 「富岳」を活用した線状降水帯予測スーパーコンピュータの稼働（令和5年3月1日より）



線状降水帯予測スーパーコンピュータ

気象庁スーパー
コンピュータシステム

今後の目標

令和4(2022)年～

広域で半日前
から予測 (6/1～)

九州北部では、△日未明から明け方にかけて線状降水帯が発生し、大雨となるおそれがあります。

令和5(2023)年～
(令和5年出水期前)

直前に予測
(30分前を目標)

令和6(2024)年～

県単位で半日前
から予測

熊本県では、△日未明から明け方にかけて線状降水帯が発生し、大雨となるおそれがあります。

イメージ

対策メニュー

【主体】

短期

中・長期

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

大雨特別警報・大雨警報(浸水害)、洪水警報等の
基準変更 【国】

顕著な大雨に関する気象情報の改善 【国】

防災気象情報の改善 【国】

実施中

